

第185回 エフエム栃木放送番組審議会 議事録

1 開催年月日 平成25年1月10日(木) 11:00~12:00

2 開催場所 宇都宮グランドホテル

3 委員の出席 委員総数 7人
出席委員数 6人

(1) 出席委員の氏名 早川 富美子(委員長)
片山 貴之(副委員長)
青木 敬信
古磯 勝子
片岡 真理
森内 律子

(2) 欠席委員の氏名 島田 恭子

(3) 放送事業者側出席者 佐藤 望(放送部長)
古寺 雄史(放送部課長)

4 議題 (1) 番組の試聴及び意見交換
(2) その他
(3) 次回開催日程について

5 議事の概要

(1) 番組の試聴及び意見交換

12月に放送をスタートした「Time Goes By ～ポップスフォーエバー」
について、試聴と意見交換を行った。

事業者 この番組は、毎週金曜日の夜8時から放送している生放送番組です。
50年代から70年代を主とした洋楽ポップスと、当時のエピソードを
DJの小田島建夫さんが紹介しつつ、リスナーからのリクエストなどにも応えています。

【 番 組 の 試 聴 】

委員：

番組全体を通して、選曲がよく、番組冒頭から、音楽の世界に引き込まれた。
また、番組中で紹介された曲は、そのどれもがリリースされた当時の世代の人でなくても、耳にしているポピュラーソングで、普段、FMを聴いていない層にもアピールできる番組である。改めて、名曲は時代を超えて残っていくものと感じた。

委員：

小田島さんはベテランDJならではの知識やボキャブラリーが豊富で、さすがと感じた。
また、声質も高く、年齢を感じさせない喋りぶりである。

委員：

小田島さんは、AM局での経験が長いせいか、他の番組の話し手と比べると、話のトーンがかなり違い、違和感がある。
また、トークの内容も、紹介曲やその時代背景とは関連性が薄い、くだけ過ぎたプライベートトークが多く、さらに、不用意な軽はずみな発言もあって、不快に感じた。

委員：

音楽番組のDJとしては喋りすぎだが、個性的で存在感があり、そのトークを面白いと感じるリスナーもかなりいるのでは。ただ、話しすぎず、脱線は控えめに、もっと丁寧にしてほしい。

委員：

心地のよい選曲がゆえ、曲の途中でトークに入ってしまう番組構成は残念である。
生放送中、小田島さんに自由にトークを預けるのではなく、曲とトークのバランスを再検討し、FM放送ならではの持ち味を活かした番組作りを期待したい。

委員：

番組中にあった恵比寿駅の電車発車の際にかかる曲についての話のように、紹介曲の「過去」と「現在」をつなぐ接点が見えるような話は、聞いていてためになる。
今後も、単なる懐メロ紹介番組にならないよう、当時、その曲を耳にしなかった若い世代にも、その楽曲のよさを伝えるような感覚を大切にしてほしい。

委員：

現在の御社の放送のメインターゲットは、この番組で紹介していた1950年代の音楽とは縁遠い層にも感じる。
ただ、そんな世代間の価値観のギャップを、時代を超えて存在する”名曲”を通じて、どう繋いでいくか。より丁寧なアプローチで、この番組を作っていくしてほしい。

(以上)

(2) その他
なし

(3) 次回開催日程について
次回の開催を3月7日(木)とすることについて、全出席委員の了解を得た。

6 答申または改善意見に対してとった措置および年月日
なし

7 答申または意見の概要を公表した場合、公表の方法および年月日
(1) 放送 1月27日(日)午後7時55分の「レディオベリーインフォメーション」内
(2) 書面 本社事務所に備え置き
(3) インターネット エフエム栃木ホームページ内

8 その他の参考事項
なし